

ケンタ、
再起動。

- 通算28号 -

もったいない

MOTSAI

リサイタルも

大阪10区
(高槻市・島本町)

ケンタの一撃！ 小沢代表は変わるか いまだに本会議をサボる現状

もし、授業をサボりまくっていた生徒が生徒会長になったとして、生徒会がうまくいくと思いますか？

小沢一郎代表率いる民主党の印象を、私はそんな例え話で説明する。

もともと小沢代表は、党務には出席しない、本会議などの政務にもめったに姿を国会にもほとんど姿を現さないことで有名だった。代表となった今も、ほかの民主党幹部と違い、本会議でもほとんど見かけない。

最近の衆議院本会議では、質問に立つ民主党若手議員が必ずといっていいほど、「小沢代表とともに政権交代を！」と氣勢を上げるのだが、肝心の代表がいない。逆に「代表を出席さ

せてからモノを言え」と、我々の野次の餌食になるのは、気の毒ですらある。

昨年九月の総選挙後、小泉内閣は郵政民営化だけではなく、政府系金融機関の統合に道筋をつけ、道路特定財源に切り込み、行政改革推進法を国会に提出した。民主党がこの改革競争を上回るのには並大抵のことではない。

小泉総理は先の総選挙で、もっとも強力な支持基盤の一つであった郵政関係団体と真正面から対立したが、小沢代表にその気迫があるだろうか。

もし、小沢民主党が今後、官公労の支持を断ち切るほど「変わる」のであれば、手強い相手となると思うが。
(大阪日日新聞のコラム「永田町の風」より要約)

松浪ケンタのプロフィール

衆議院議員 当選2回
(自民党の2期生では最年少)

【役職】

衆議院環境委員会理事
同 厚生労働委員会委員
自民党厚生労働部会副部会長
同 環境部会副部会長
同 新聞局次長

【経歴】

元産経新聞記者、
昭和46年、大阪生まれ、高槻市日吉台六番町在住、家族は妻と長女
清風高校を経て早稲田大学商学部卒

【特技・趣味】

プロボクサーライセンス取得、空手初段。ギター、オートバイ、魚・カメの飼育、英語 (TOEIC Aレベル)

松浪ケンタ後援会事務所

〒569-0804

高槻市紺屋町11-1 FKビル2階

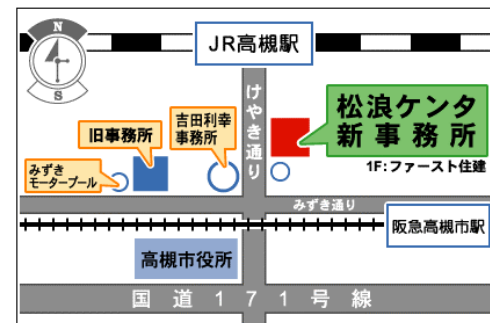
Tel: 072-685-7188

Fax: 072-685-7189

URL: <http://www.kentakenta.com>

E-mail: info@kentakenta.com

発行: 自由民主党大阪府第十選挙区支部
責任者: 上田 光雄 《部内討議資料》



再起動
ケンタ、

- 通算28号 -

リサイクルもMotTaiNai

～ 容器リサイクル法 環境委員会で質問 ～

◆ 店内での使い捨てはやめましょう

「大臣、ファーストフード店でハンバーガーセットをお食べになったことはありますか」

5月16日に行われた環境委員会で、トップバッターである私の意表を突いた第一問に委員会室はざわつきました。容器包装リサイクル法(容リ法)改正の質疑で、ファーストフード店やコーヒーショップを例に取りながら、消費者、事業者ともにゴミの減量に取り組める環境作りを求めました。

施行から10年になる容リ法の最大の功績は、「リサイクル」という言葉を国民の間に浸透させたことですが、リサイクルが必ずしもゴミの減量につながっているとは言えません。

いくら環境負荷の少ない生活を心がけても、外食時に店内で使い捨てのカップを使ったり、ハンバーガーを過剰な箱で包んだりしていたのでは、環境に敏感な消費者の心理に悪影響を及ぼします。いわゆる3Rの順番で言えば、

Reduce (減量)

Reuse (再使用)

Recycle (再利用)

であり、そもそもリサイクルの優先順位は3番目で、減量こそが、何よりも大切です。

しかし容リ法ではこれまで、リサイクルばかりに力点が置かれ、減量、再使用は置き去りにされてきました。そこで今回は条文の1条から「排出の抑制」を盛り込みました。

◆ ばっちり反映

私は身近な例から具体的な対応を環境省に求め、小池大臣からは、「事業者との自主協定などを通じて取り組む」という答弁を引き出し、さらに附帯決議の2、3項目目にも次のように強く反映させました。

二 コーヒーショップやファーストフード店等販売施設内で供される容器などについて、再使用容器の利用が望ましい形態について事業者及び消費者双方の立場から幅広い検討を行い、必要な措置を講ずること。

三 再使用容器と使い捨て容器とのコスト・環境負荷等について比較を行い、本法に基づく再使用容器の利用促進措置について検証を行うとともに、必要な措置を講ずること。



ケンタ「ファーストフード店の店内で使い捨てを減らすべきです」→小池大臣「事業者との自主協定を検討して対応してまいります」。使い捨て文化に一石を投じた。

◆ 直感的なキャンペーンを

昨年、環境省は「クールビズ」という言葉で、地球温暖化への国民の意識を大幅に高めました。予算の少ない環境省にあっては、高いコストパフォーマンスを発揮した政策でした。

今回、大臣も風呂敷を用いてレジ袋を使わない活動をアピールしていますが、実際に普段の生活に関わりのある部分では、レジ袋の有料化があります。法律で義務付けられないものの、事業者に努力義務を課していることから、かなりのスーパーなどで導入されると予想されます。1年間に日本国内で消費されるレジ袋は300億枚で、国民1人が1日1枚を消費しています。

店内での使い捨てをやめたり、レジ袋を有料化することによって、事業者、消費者ともにリサイクルからリデュース(減量)への意識を高めるべきです。

私は質問の中で「リサイクルもMotTaiNai(もったいない)」という標語を提案しました。

環境は1人1人のマインドが問われる分野です。「レジ袋を使うのはかっこ悪い」とみんなが思えるような流れをつくっていかねばならないと思います。

松浪健太

動画配信

※今回の質問の動画が衆議院のHPで公開されています→<http://www.shugiintv.go.jp/jp/index.cfm> より、(環境委員会→5月16日→松浪健太)をご覧ください